



漢山集  
二



利5  
1.979  
2



1979  
2

崑山集卷之二目錄

初年

柳

喜

杏花

木月

烟村

若和布

蕨

佛別

松若綠

棗

角地草

去筆

花



崑山集卷中二 春部

初年

名もや今日初年此は初

初年也面より道へりて

初年に鞍つなくとりの具

くんと由志く人の持

初しは人やけのり

初年おさめひの初

政信

年柄

良次

きりぎりすさるひりく

初年へきふたさあひの物基部

長頼此

佛のわり色

二月十五日為さす

ちか

美風母志やうじりくの形端

目たきい志けり佛のわり色

天余の母色縁らんのおまの

あつらやさる鳥いぬい縁らん

南都住持中興

何らんどうせう二月の暮りわ

元惠

清盛へいきて佛のわり色

加友

このとけいそ身たつわ縁らん

元晴

あ百人わらんや此縁らん

友三

春波り茶志やうむよ何し

曰

ふ部よあ虫百ららん縁らん

市之

去人二月十五日おふ

別ける遊善女

別きまゝ世の志をわらさぬは

は六節集

正朝

かゝる家徳の七条志由なるの御

本歌集

吉治

新遊女別きあはれとくんななる御

留

政信

孫らん像女打付く五十二月外

月

新玉もともやしく新遊の別き御

月

別きまゝ御女ゆる毒らんなる

良徳

今日の誰を結せよとるじり

長頭元

頼女面さしこぬじや孫らん像

月

柳

花のさきふぶ柳や元さし

切ら井の柳はぬれ喜き薩うか

たはくそし他わさし梅り柳か

喜柳はそられなきさとの木ち御

表風の柳のかはれ頼風う柳

依保姫やのら柳の長う色

新うらと水や柳のむんうこ  
 西風や柳の枝やふるひうら  
 下葉を柳乃うまをんさり  
 帯とみふ柳の葉のふ玉うか  
 柳髪吹ううらや夕あ  
 春柳の本ころみわがははあ  
 咲花乃あま極くも風うま  
 きいれとわふやはくまの糸柳  
 飛く糸柳の糸もふもあこ  
 新糸糸ころくはさくし柳か  
 波のあや織な柳乃糸えら  
 枝の糸の柳や流石のゆの糸  
 なをききらふ竹とくこも糸  
 雲の川琴の流やいと柳柳  
 ちる梅や柳乃糸のじとひを  
 川ゆけのうら糸のあや糸柳

氣力なりと強ひたりし柳  
 歎きけりともやうき柳  
 やしむも奈のこほなれ柳  
 川にぬきうたりも実茶柳  
 かこくくもじのちも茶柳  
 葛城の天物たより柳  
 火橋やけいと氷さの柳  
 いらりのは乾坤乃と出柳

多入出くくふらわさく入柳  
 夜もゆきみよ浦端の箱柳  
 枝母沙ふちわたりぬ柳  
 かしこくも常出とれ箱柳  
 枝ふれよし柳せん志もれ柳  
 目のよとぬれけりやこふ柳  
 ちとちも持てわてけり柳  
 花も増とちとんてらる柳

物らかきも川隈もよき葉柳  
 多き身とわらわらわい柳  
 下流も志もわらわら系柳  
 ちねもわらわら人ののりもま  
 作保姫のちをい法い系柳  
 常も魚もわらわら系柳  
 くの付のわらわら系柳  
 川もわらわら系柳  
 鶯の親子もわらわら柳  
 妻もわらわら系柳  
 風のまてなしく付髪は柳か  
 池もわらわら系柳  
 波風もわらわら系柳  
 花もわらわら系柳  
 蛇の森もわらわら系柳  
 木もわらわら系柳



木下冬といふ山すきそなる柳か  
向母もやしなまの骨と川柳

みろくの目もいふみかち柳か

はくはつひみよ上さう此系柳

はの髪と刀のゆらへせの柳か

風をうて誰のあくる髪き柳か

葛城やそのうも枝くの娘柳

娘柳枝とも枝かほくも髪

枝くのまさき柳のち子か

氣をれも頭風いやまぬ柳か

蛇柳の枝くや角蒸うあこ

烏帽子のいしのかうも柳か

こかぶりしめ付髪さす柳か

尚園梨鵲巢頂上ハク

ちんちん鼻の美蔭のゆの柳か

六原の柳乃髪へいふ流うな

三副

宗時

江別果はけ

政成

未得

正次

し元子

夕霧

曰

曰

保友

髪花を以て好む柳也出家

曰

かゝる花を以て好む柳也

教養師 定利

を以て集るとかひの好むる箱

大坂松屋 孝福

花咲てを以て好む柳

柳 北好

墨深の柳を以て好む箱柳

南利 吉勝

海名梅をかこむる箱柳

方成

鶯や古今傳授のこし柳

安助

餅雪のほむる箱柳

利重

少くもを好む箱柳

合成

老木を以て好む柳

良保

餅雪のまゝを好む柳

吉時

二まゝの木を以て好む柳

曰

ゆゑまゝと好む柳

曰

極目の花を以て好む柳

正和

花梅を以て好む柳

定次

朱柳をかこむ柳

忠次

清水やぐらんのかき白の茶柳

兼心茶  
林儀

懐とくはくや境のこめ柳

友右  
未得

吉柳の連枝乃末いつく末

貞好

おの大事大ひらめ柳か

円

まきらうけよ道野多此柳陰

梅口

円

まきらうけよ道野多此柳陰

江守

貞好

心ふ慈おてもやま柳

仁徳村

正勝

延くじ枝や柳そら此柳

藤原清

次良

楊柳のそら此こ柳そら柳

正重

まらてらんせんるや猫のう柳

友右

政信

白浪のそらやま川柳

大坂津勅

貞利

水鞠乃のつとつ柳

友右

如貞

系川のそら此柳

江守

友宣

夕のそらやま川柳

大坂津勅

儀後

浪風のそらやま川柳

教訓

定忠

流るそら風そらや川柳

教訓

重次

清多新いわふさりのこの柳ふ 江戸巻中六巻 英香

今も来りや柳のてんてん柳の 新子川 一井

花のたゆましくけさる柳枝 大坂伊勢村 三三明

風流あつ吹玉柳 大坂若村源兵衛 清友

風吹の枝やゆりくく玉柳 大坂若村源兵衛 利政

糸たきく枝やまろりそ玉柳 大坂若村源兵衛 助喜

うそをもち使らさきくらん此線 大坂若村源兵衛 久龍

うらうら上臈物といと柳 大坂若村源兵衛 周次

柳の本母のらわ時の糸柳 大坂若村源兵衛 久勝

風や相場わらりさくら此糸柳 大坂若村源兵衛 定重

涙もろくあく枝やまろりそ玉柳 野江甚太郎 長治

頼とゆりの風やいなうら柳枝 尾川清水 玄茂

女虫の美落や琴此糸柳 大坂 不存

氣力をふていそきや脈の糸柳 中野 知貞

分て糸枝やまろりふの糸柳 大坂 貞直

料理せよそはな柳 大坂 貞則

鬼母の柳この柳は 清玄  
賜と方柳と楓やなふり物大森 幸忠

大坂新清水万白巻取

油志の母末繁昌の柳外 長院

一筋色く川系そく柳外 月

姥柳の接家のつと共ゆの

つと可て

ふらりのうらんも今や姥柳 月

ふら柳や楊をこめて柳じ 月

血世の祖母の柳のとも此姥柳 月

緑るる髪といそりか姥柳 月

其系わらん万斤そ柳 原 月

観音の璣珞う流ゆの玉柳 月

寄の玉そ元やうおた箱柳柳 月

さい志の母わらや緑の箱柳 月

箱柳流のともうや系柳 月

打掛り入露のさくの箱柳

よの枝とよの母指や数枝

やまの箱の気とやさむらね

人さすの葉てらん柳う

さしなりく有や火嵐のふ枝

風母柳物さくあふりて道

うら髪ひらく道の柳か

うら母わすら柳やさるし

網豆の福くふまつる糸柳

うらこのえ母のりや柳髪

親葉とつくと柳や珠玉腰

風ぬらこまぐや老木は糸柳

まゑ

飛ぶは流たの母なるや面柳

まゑと親そて若れむと子

まゑももちやしとさくや

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

友若

紀外

貞好  
盛賢

作保姫の志しくありやまほ

長頸丸

松乃緑付 妻花

老松もかりや十八乃みり

姫松のまほさ母のりや乃緑

友名

貞好

たつ尾のり松らちるやみり丸

増位

玄極

う濟の松やあの子れ乃みり

大坂森中深中蔵

新陰田巻六

安當

まつくわらや丑茶と松の乃緑

松のまほ子とあいま乃緑か

正徳

姫松の緑や常盤の乃乃たり

未得

松の乃乃みり子れをとしてか

傍梯井長

貞房

松花

あむ枝母とるり咲や松の花

重勝

本目

あのみつすむ本目乃乃子

本乃目さるはりそやあの家

まきの本乃乃あむむら

表のやうに本枝のうけを  
まをまこころをみよ木の

花の具と目ませとまの柳  
祿起るや母目とまの柳

まをれ目色とまの杉木  
まのま本枝のまやま

木のわやとまのま  
花の種と目と木目のま

種まきの本枝のま  
人の目も本枝のま

前まの本まのま  
まのまのま本枝のま

本枝目まのま  
木のま出まの相のま

花のまのま  
まのまのま

左様位

未得

任田

満成

栴山

政信

徳母寺

保友

五葉村

孝家

正儀

長院

同



棧

白玉の何そとらんありの棧  
 花を火とどりし棧のあつが  
 花さけいのるや珠救の玉棧  
 小棧のちるれとまはちりけが  
 きたみらわわえさちりけいせ棧  
 いかとみ花もよらふや浮棧  
 白いけとひふい矢落つとらま

雲戸らわむけい白浮棧  
 へららわ釣舟よさるあふたき  
 日廻てもそいさるらるせ棧  
 八子代咲や遊て下和の玉棧  
 花の救や子顆百顆の玉棧  
 ちよきし朝日と丸や玉つたき  
 花乃ちるまよこちくせ玉はき  
 咲てほいあこと成やちり棧

花入の口包み川のわろくとき  
みくろくしき流もや半此玉棧  
本み所と流けつたがう教棧  
流き分此棧の花やみりん一  
西の文みり子あまやいせ棧

返書

ぬやさのし袖め色流よちり棧  
紫み流のちやまかより棧餅

花籠もや志やんとさむら玉  
たのわりて咲いぬ玉棧那  
花の流や沖み氷の玉流はき  
新女もや佛みさうく玉棧  
まきくあ花りや半此玉棧  
寄れうも咲や衣の玉つとき  
とる川色せよ珠砲れ玉棧  
かき花も色いみつめの玉棧

右取

大坂

江戸

佛師

保友

如貞

利政

林麻

定之

良和

正勝

花見志けるみまもたむしよ

志づつときも花もひさかたの  
一系

若緑の種りおまのちりり  
友我

花もひさかたのちりり  
定房

けり花いろはよほとちりり  
重久

流きよけの棧と

まーまろちりやぬのちりり  
正久

掃たつたや山鏡ちりり  
合成

いろぬふひちりめちりり  
伊貞

花毎ゆきやもさうけや  
實久

ろり咲の花や合浦の珠  
時之

見わらぬや花が惱乃わ  
孝久

庭あらの橋とさうひか

ていみけし

篇をたつ棧とさうし  
時之

棧の花とわら

月影の気ももたらしく秋の端居哉  
冷き夜あり 同  
 為共あやせりそ夜うん志の棧  
大坂 信安  
 嗟ちの赤い海老う倅現棧  
大坂 盛庸  
 飛入わさこいんゆを棧う那  
大坂 重成  
 嗟ぬるいけよまのぢそ大はれさき  
大坂 清心  
 本立ちやかきん當の金つとさき  
大坂 助高

東の四門に紅葉の倉りよ

うし西産敷へりけきい

ゆるせきあ花を飛入の玉椿 長秋

花入のほりちうくやなま棧 同

我とわくとちみくさゆや赤 同

炊ひん少くちくく棧のう 棧

まひみ棧と床み生まり

比も今八世成けきい

比も今八世んさいの流とさき 同

烟杓

畑打のひ子織のたぐ料付 きとせ村長 重信

角継声

雨う柄洋のらじい草紙式 貞好

角継一草や難波の三つ鐘 政信

角やまて草の角継一草 珠白抄 洋也

角くじや草乃葉女のらじ 大坂聖三郎 心次

角継や難波の三つ草 奥書 友三

角和布

角和布とわ付くまの草 と

のつまへ一草和布や と

大渡み と 角和布 と 信

角和布の汁と出 と

汁の子 と 角和布 と 長

土筆

一の草 と 土筆 と

土筆賣や と 角和布 と

志んち此草のうらみく去草  
 去草さうま今いまきかか  
 流三海子入産れりいと去草  
 去草有母の志いり子下卦  
 去草摘膏世いと去草外  
 ともせむ代た穀の志ははく  
 依保娘の志恋草や去草  
 さいりへ乃子知草のうらみ

為この木の名い二と此松葉  
 勅筆の大内山乃はくく

依保娘  
 保友

唐草つと流うの去草  
 誰の若母種と流草去草  
 草めてくふ母をうじや去草  
 子草のうらみなく此去草  
 去の草深じしすの霞か  
 流も去草人そかうきこ去草

唐草 同  
 誰の若母種 政友  
 草めてくふ母をうじや 良保  
 子草のうらみなく此 一南  
 去の草深じしすの霞か 一南  
 流も去草人そかうきこ去草 一南

らんひつて地うく巾出り去る幸ふ水石小言  
終むつとある人がうこれ土等自具  
古記

遊善

さしけいやちうと善とほしく  
まふ由志の親へ面うや去る徳念行 不盈  
平類やみくゆいほじ去の等 長記  
象ゆひう塚らりやまらう去る 同

遊善山樂し

去る中てかえさるや給去る 同  
九列のうや日とまらほしく 同

蕨

と日ひう一土のとむけけの蕨  
籠物このもままりせんわら  
わつておらわ此は尾の鑰蕨  
何何の蕨もわるきうてちう  
ゆもくわうゆのふれき蕨

ゆきうらつちのふちりさし  
切つてしよと流るひらり  
そのつらと蕨やあめさし  
蕨はわつとささるのち  
あつたやんよとあさる蕨  
傷心も切らわらぬのち  
ゆきよめと流るつし  
我はゆとあつる蕨はひらり

ふらさよまき極の下わつ  
うらつと川も花乃下蕨  
布あつて蕨もあつとわつ  
ふてふつつをさつ同のち  
ふてふとたつ焼登は蕨のち  
山守とふらちあつとわつ  
蕨あつとふとわつとわつ  
あつとわつとわつとわつ

あつ 貞好  
あつ 保左  
あつ 同  
あつ 由吉  
あつ 貞負  
あつ 久松



たみ長つともやせ前出の初蕨

右坂行の末 吉任

あつたくともみ汗のきつる蕨

坂会 政原

蕨ともや入まてくくまき

右坂行 吉任

徳燈おてもまむおちやのみき蕨

一明

ふれ品とたつか思尾の下わらひ

素名中治深系 俊秀

肩とんととじつとんたれ蕨の子

素名水名有為 長昌

ゆら波の穴やちんくの鑰もこひ

中研法三石 通保

雪ひらぬぬよこぬいさつた元

行田 政信

若よりとも冬の前はこころんか

堺奥田依無 吉任

前出のとげりわんぬすつらつた

新川 吉任

蕨もやあそらつとあじまは山

玄樞

のゆらふらつらつたおの蕨る

素名中治深系 吉任

首湯山ともあつ蕨やひりな

吉任

蕨多きこもあつとせひ葉門

日

やせつらつたおとくひる蕨は

日

よとたともあつたの花は蕨

日

百足より蕨子多し〜  
上人の蕨子めくせ志望は山  
曰 曰

朧月

い〜とまろ〜  
友我

朧月夜新〜  
良勝

朧月ハ内約の〜  
若痛

子金との〜  
良條

横〜其ま〜幕を〜  
信安

文字此あり〜  
玄孫

朧月の桂男や〜  
百成

あ〜物や内約の〜  
安三

月〜い〜け〜  
未保

救珠す〜  
舎六

酒〜か〜ん〜  
若盛

花

なら〜  
の家

二  
三  
あめさうめ花や親め不孝の

遊書

ゆゑの浄土のまは花んか

折云歌奇り

ま花の只よひ志んの浄土か

みとみぬ人のむあゝる那

花とあたまさるまやほの親

昔も仲や地まら花の八を露

幾度もさうたきん物や花の露

花の物やあゝるま置れまの花

連舟仰る物とい何人もあゝ

あゝ奇めて

あ花の列子の花のりは遊

ま風あそるまそや花は笑

花の下ゆくま廻るま果もや

ままのあゝるまおまあゝるのむ

科の河花とけりし後西村

高野一見の時

花の名どかたもや花身不初坂  
あふ花さく志川をい流る花  
寐をた花の流と志し縁水  
花の名は赤梅檀の秋迎は言  
川乃流の流ふらや花いこ  
風の勢は花母鍾魁の札も亦  
花軍佛もさるらや三貝足  
花の下母じさしたもつやせり  
むくの流なうとあ世少く流水

宇津の流めて

花を流花母まよらわすらんこ  
花あさくらとせらるや系柳  
花あまの流もめらる流の流  
天を流花母酔ふらあきのみこ流

高野めそ

花を火とそりて不斬かゝる心

若野めそ

うねるをえ皆むめりそ若野

花の心なとみすうら子花外

出わらうく花邊人よまき花

火とそりて花の波烟うす花

ちる心理う花をそりて花の波

花を火とそりて花の波

初瀬めそ

花をあてゆらうめらん初瀬

うら花は花を自らとりて花

花の花とゆらう花は花

花を火とそりて花の波

ふ花めそ

お花も草捨くみじろんま  
遍照の花は憎みの花頂山  
垂家とらんて落るる花軍

生きた綺屋を

おんくお花の白ひやろ耐綺  
ろきよもやきてらんゆな花は  
我と花のおぬい負報ゆるま

陰母やとりみろわ一樹の花は緑

風やもくさむれちりせと末の  
吾野川にせよあのかも花はこ  
お花の香は海もろくし  
むぬぬの親子いさうひ葉外  
おぬいむんや河の花りこ  
おろの波がお月の雲う志は花を  
咲花も若様のうけうくろ  
ろ綺屋をせくちくろ花

まげくとおふ上戸の花はふ赤  
ろくまやん楊くらる花はさうり  
あつやうつやまの國のむたり

三結寺の花と

とめく枝さんら此花はさうり

赤の花と

是を穉みさうらんのふ花

我もくすまけと咲や花軍

花さうりそれいさうの若野と

むとうんて月あくおむ日足

みより色海さうらま紫のたは外

花の形やひさかたは為假糖

作り垂し一ちまやまは花島

むくしこみおかけ若れりかひ外

あなつら花や路のさうらと介

若れ時風や花と味方うち

二 鞍馬のむとみく

五九

まろくこ歌母候もや天物花

彈正と云孫宣のありて

さくらちりちりよ彈正殿の花は庭

蘭麝待白ひや花母表白山

むやちむび大原山乃雲は帯

常もさかさまて出よ花の香

三月の雲細とくぬむりちり

花母風候ぬい草野志川か

孫守のむめあふ海や浮花

約しむさく此勅とけく海山

さみまいあん気の花はさくち

ふひの花をくちるとせ蘭麝

表山乃表やさちちり花のまん

測めあ花ハ絆地乃あさか

いけんたのわ花むんの湯外



道場のむらやまのむらやまのむらやま  
帯とそけ花と遊し多き  
みみじく空の天と地と花  
まの夜月花さるや花家報  
まけいん花と向りむ花  
若ぬ花花やけりむ花  
花みよと花人とそそ花  
大舞の花みんや花又花

ちまもさるれきと花と花  
みみんの花けりむ花  
花のけり花字や花と花  
仁志と花と花と花  
花の雪人の木みかた  
むみめいそくや花と花  
千句東三花

むらやまのむらやまのむらやま

かこめあはうのありてあはれ花地  
 うくらさくあかみろをむの  
 花の吟し虎うをゆくを花地  
 古今傳受はゆり時長頼此  
 とあ吟よ  
 同日 同日 同日

花み波着よけりあふふこさり  
 善那山噴ちる花や盛衰記  
 探幽は眼吉野花への時  
 花み波着よけりあふふこさり  
 善那山噴ちる花や盛衰記  
 同日 同日

かききんはまの花つんや花地  
 双六うおみくこ花地のまゆさ  
 見えいくわあそふ九重の花  
 折句え皆冠あまこあこる  
 同日 良和 同日

あはれしよさく色のいまは花地  
 花の下の奇ちるやこれのり花  
 花の影を繪うえ赤く花地  
 同日 同日 同日

花は浪似たりとらり汗る

けとれや花は衣花了ゆも

見ゆ花はさきすりあ

ふぬ花みく可也なつくは字

請とけは今山谷の花さり

高砂とて

たき基母あつえも柄んむね

むのきいんりあくらあまられ

金鼓奇あく

山ちや花ちる本は本種い子

花のよやさいしてはめら花紙

あ花のすまわらういあかのあ

きあのあくそそと花

花くぬらふりあや丸はく

花のあといの進うんたるあ山

やうあれじや花の衆肉去

歌集公名

正儀

歌集公名

正次

同

日長歌集

定利

同

正忠

内方思山

正事

花集

安助

同

同

同

同

政信

同

花咲の香うつり木の野山式 清信の書 安之

ひまわりをむしりんまの白所 利政

園の夜に霞を花乃さくら経 利政

花とみろ目や正身此生佛 正辰

たぐ花のちりーぬここと花の浪 英昌

みぬ山のうら花やちり付と 未得

あゆみて親みぬり子も花の香 同

山へ船のかりさうり花の波 同

ちりぬの山さうり花の波 同

後めの人

ゆきまことまじきなまもま枝 之貞

宵平法くせんさ楽の花枝 正辰

花みらむ風やねん花くこ 繁秋

山くへいさみらけつ花の波 一滴

續きわせがそけくやう此花盛 同

らんすらのえを花のこや 則重

花の漣やうきまそとくふ親の  
高貴本流  
良勝

親あつととと云あそ

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
江守  
康耳

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同

そん

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

花の漣やうきまそとくふ親あそ  
同  
同

因中のみむや科のちしれ家  
宗科

夏成と南村の花や咲陸姫  
左後 一辰

伝保姫のぬ花乃様久八重言  
定言

みづや佛極らく中の花盛  
日

向みこしむ風のゆ中や花軍  
日

わけるも風を花るや二重言  
宗信

天物ありて咲花はるやる使山  
山内法吉 定佳

花の細志まきそくやかつ花理  
元辰

さしけりそみりやのけの流花  
信元

花見共下戸ありぬう一界山  
津國屋崎七兵衛 定紀

りくそいぬ志やいぬせめや花の情  
尾刈野村長三郎 定後

まみりゆく花をいふそけ流花  
概州富田素盛 定保

惜とさひがけり花のまひ新  
日春の松崎八郎 一治

むいさせ心もいちせ喜れ花  
江戶行舟 一井

顔みれうこしてさよあをみ給  
南村翁 定知

あめいそ志とせさらんきん花冠  
山内法吉 之賞

橋井六兵衛

交志くも風のてりおの花ひり 清之

花の浪ちり次藤屋の子たふ 同

は乃花も嘆つらんさ此まひ 同

花山母色牛はさく花ん車 良保

花山母色牛はさく花ん車 尾崎中三郎

寺お福て

今更んも花やうもせ龍師 友宣

法の花お志お龍勢やたら 元晴

うはあも色目やうこけさ花 宗重

あまもや行は龍師の花の若 若新

子花此率都染源 同

みまれのらあひる 一元

喉つらむひらうん 一明

あめくくつらうん 好政

二おあ 定時

花の野川 左我

甚也

好承

正朝

賞之

青昌

同

同

之意

郵差と為座内の山より

三妻のやく病のうき花は

見物かよふ花乃さりか

珍み成てれかん物やれ

赤白の源氏平家りる軍

花むかひのよみは是氣なる

花の人の祥なりきるは月花

八葉かよふ九葉は花母か

ありちりしむとみ

花やじり一氣中物の男山

花を帯ちりまゝ花乃わ

あゝ花かあや風の跡

南枝はむじまふや花のうし

花山せよ身のあさるは花

醍醐の色一見あ

午の時花の波をなす

廿

廿

過つ三葉

大板尾崎

櫻川

若尾長井

後定

不知

政次

系居

一頁

中

長次

廿六

廿六



嘆ちらわ天満次才花のぬ  
 三好の花の雪あらし御を成  
 鹿さ此蜂や花の奇とあふ山  
 風舟鳥の舞はあやうら花  
 去性の胸や釣糸花もさそ  
 人目みぬや垣の内さの花ん  
 為花見て悟あやちら花  
 深くちまわさるぬいの花  
 道に天舟わりて死むる花  
 承日足花舟一寸法師うら  
 水舟花友や浮舟浪のあや  
 連袂るや折ときくへら花枝  
 花うらうらわ花舟花後見あ  
 狗なうそいさく院の花ん非  
 只今舟も九色の花わら花  
 花を人もきせらとさうら花

花のぬ

三好

鹿さ

三好

風舟

去性

人目

為花

深く

道に

承日

水舟

連袂

花う

只今

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

花を

出入の息や心のなるれく勢  
ちとどぬいもくくんの法の花  
花おみんすふやあんくろ者  
むよのさきそ天のちくくそ太声

天王奇めて

咲ぬらんよちろふい木は花もか

花のえかあはれ消の表くか

花はちくく思とえれ花の林

お花のいの毒蛇ふじあひか

あらんいせん咲消壺お花は浪

花も火とるせ木浪のらぬか

花の病挿よるあまはかんじ

花の下おあそりそ花も花のしき

花の白ひ給めもくくもや麝香

花や折あられぬあうーや朱花

めとけりよあうくくそをさき船の

花のさき船の

花

花はちくく思とえれ花の林

花

花の白ひ給めもくくもや麝香

花

花や折あられぬあうーや朱花

花

天王奇めて

咲ぬらんよちろふい木は花もか

花のえかあはれ消の表くか

花はちくく思とえれ花の林

お花のいの毒蛇ふじあひか

あらんいせん咲消壺お花は浪

花も火とるせ木浪のらぬか

花の病挿よるあまはかんじ

花の下おあそりそ花も花のしき

花の白ひ給めもくくもや麝香

花や折あられぬあうーや朱花

めとけりよあうくくそをさき船の

花

香や田あふはひふはむらら 同

花の色もあふふく鈴麻山 同

あふや花とあふふふふ 同

花もあふふふふふふ 同

化花やいふふふの漢詩 同

約花かふふふふふふ 同

入道にたれふふふふふ 同

九をふふふふふふ 同

かろふふふふふふ 同

さうしふふふふふふ 同

花見酒松康ふふふふ 同

梅念寺とふふふふ 同

のあふふふ 同

花とふふふふふふ 同

あふふふふふふふ 同

あふふふふふふふ 同

大坂位 大津勸修寺

尾州津島位

大坂位

大坂位

南郡位 紅雲寺

梅念寺 花の枝

花のまじりたるらりら白糸 江戸江村が昔の歌

花のわらわぬよの本も風流 元川江 忠治

咲て散る花のわらわぬ 佐友 栄甫

花のまじりたるらりら 離 同

金鼓の奇也

ちりちりも積つた雲はたも花 大坂江村の歌 保友

花のまじりたるらりら 葉山江村の歌 林儀

小棚も花は生けり

生花や棚よりつゆあみ 体世

花とまじりたるらりら 三承り江村 梅盛

葉のまじりたるらりら 同

三春野の花もまじりたるらりら 佐友 一彦成

花のまじりたるらりら 娘江村の歌 政次

花のまじりたるらりら 佐友 近重

多の奇也

花のまじりたるらりら 名江村の歌 三彦成

本花の如く咲花の

瀬川富位

方りく花ぬれ鬼り

江戸新橋松石

世のうさきしら入御る

名越清水原

花とわき色一念かつき

母別一乃田大富

花はあり天下樹のや

正長

花をのりきすた吸み

淡路田中

白ふ兵了京中花の

久次

ある花枝もつき木む

一木

花とぬじを此花より

吹白

三花野を花しら

京平尾小兵衛

みゆ来ていけた

尾別公然位

花の枝姫や

一身

ぬりてふ花と

政宣

さる春奇花の下

春奇

愛此親やそらるる花の子は

安部

花のめぬいものと讃て

は花の神代をまのぬぬい外

同

親と子や花を母系へのかり橋

清心

懐あつても家此花の鞠は

長久

死て子かゝれるふいのむの面

良雲

大坂新清水万句才三花

題うそ

花ゆあをそ浮本花魚のつゆ

良法

水牛の花の波か車牛

長松

那智は流や花の白波今然

同

あ花のつもんはらぬや風車

同

花乃をよふるはけよ花あ

同

むさけはたぬあ白ふかや外

同

まん十八地くあつ花のり

同

花名や供あく表は都ハ

同

風のまへの花の色即気定

子ふゆつと親ありあはれむの面

蜜凡の蜂のそむふ花の家

祿うせて表ひそよむれぬ

花ちびと風を本枝中のあはれ

面ハ親とれおとひそ表乃花

雨露の身よしく花も氣十四

むみうき風とあまら醫志は

まらかぬんがやあはれむ

あ花はうき紋るれや若しり

まけやく実へ成次才本を花

一花も花の若野のうきとりぬ

そら花もあじのううくはな

花やまの心をそのぬり目乃佛

作礼而去と笑ゆわはのむの

あまの南のうき花の顔

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

花とありてみ代とをのりての歌  
同

古草子に依りてあら

花とありてみ代とをのりての歌  
同

何れとて花のありての松の  
同

飾に徳安貞の母

花とありてみ代とをのりての歌  
同

六角に花の籠りての  
同

花とありてみ代とをのりての歌  
同

花とありてみ代とをのりての歌  
同

花とありてみ代とをのりての歌  
同

花とありてみ代とをのりての歌  
同

花とありてみ代とをのりての歌  
同

花とありてみ代とをのりての歌  
同

ひらり雲とて

花とありてみ代とをのりての歌  
同

余亦あるんといふも花の  
同



嘆花の雲のあつひのくは山 同

花あじなぬさそくまの海を鞠の 同

るこ世さかふ目出さやちを 同

南無善王花ともまれ會をよ 同

奇よゆく方と花の笑ひ只 同

東門の大僧正成乃也秋は今

一天母にわふ夜や花の 同

花を嘆て我とちんらんはあ 同

お花をもさうよかけてよ不説故 同

花の泣とつさきあらんちる日 同



